

未来ノート

-202Xの君へ-

フィギュアスケート

とも の かず き

友野一希

小さな活発男児

芽生えた勝負心

日本代表の重み

好敵手に憧れて

好奇心旺盛 存分に遊んだ

体は小さかったが、人一倍活発な男の子だった。

1998年5月15日、フィギュアスケート男子の友野一希(21)は大阪で生まれた。健康状態に問題はなかったが、体重は1995kg。医師から「2500kgになるまでは病院で」と言われ、約1カ月入院した。

小学校などの背の順はいつも最前列だった。性格は明るく、誰からも好かれる

人気者。友達も多く、「ひたすら缶蹴りをしたり、フニャフニャのボールで野球をしたり。とにかく遊びまくっていました」と幼少期を振り返る。一方で、母は気が気でない。平均台のような細い場所があれば渡り

たがり、低い壁のようなものがあれば越えたがる。怖いもの知らずで好奇心が旺盛。小さい分、心配に思うこともしばしばあった。

スケートに出会ったのは4歳の誕生日直前のこと。家族と一緒にできるスポーツをと理由から、大阪府内の自宅近くにあった上野芝スケートリンク(現在は閉鎖)で開かれていた幼児教室に入った。「母がスケートをしていた影響もあったと思います。なんとなく始めた感じ。最初は本当に遊んでいるだけでした」と友野。週1回のスケート教室を心から楽しんだ。

ともあり、試合ではほとんど勝つことができず、ふっ飛ばされることもしばしば。ソフトボールは地域のチームで始めた。足が速い1番打者で、塁に出て相手守備をかき乱すことを得意としていた。「よく声が出るから」と捕手を務めたこともある。今でも、ソフトボールや野球は大好きだという。

両親の方針は「好きなことを思い切りやらせたい」。空手やソフトボールは、どうしても大柄な相手になれない部分があった。それでも、弱音は吐かなかつた。「やめたい、行きたくない」とは絶対に言わなかった。しかし、小学生である決断を下す。「スケートをずっと続けたい」

①空手をしていた友野一希
②ソフトボールをしていた友野一希

いづれも家族提供

小柄だったころ。

(大西史恭)

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。